

秋のハイキング



1班 羽山健一さん

週間予報では、11月26日は「雨」となっていますが、直前の天気予報では「曇り」に変わったので、当日は安心してJR大阪駅に集合しました。

生瀬駅に着いて出発するときには、寒く感じた気温でしたが、歩いていくうちにだんだんと温かくなって、快適なハイキング日和となりました。

参加者は35人で、1～3班と、4～5班の2つのグループに分かれて、コースをめぐりました。当日は紅葉の季節ということもあり、ハイキング客も多く、昼食場所などはかなり込み合っていました。途中に見える山々は黄色や赤に色づき、溪流の水もすがすがしく、景色を楽しみながら歩くことができました。とくに、武田尾付近のモミジの紅葉は鮮やかでキレイでした。また、真っ暗なトンネルを歩くこともスリリングな体験でした。

昼食時には、パキスタンから来た学習者が自分で作った料理を持って来て、みんなにふるまってくれました。ボランティアさんも、お菓子やミカン、巻き寿司などをみんなに配ってくれました。おかげで、コンビニ弁当だけしか持っていなかった人も、いろいろなものを食べる事ができたようです。



館の正面では、火の鳥のモニュメントが私たちを出迎えてくれました。館内は、手塚の漫画歴史年表や、フィギュア、グッズの販売、映画ホール、アニメ制作体験など多彩な内

2時30分ごろに全員が武田尾駅に到着し、ここで、帰りを急ぐ人は解散し、そのほかの25名は、宝塚の手塚治虫記念館に向かいました。さすがに手塚治虫の名前は学習者の間でも有名で、鉄腕アトムはほとんどの人が知っていました。記念

容で、予定の1時間がアツというまに過ぎました。

5時ごろ阪急宝塚駅で全員無事に解散しました。今日は自然に触れたり、また、アニメを楽しんだり、充実した一日を過ごすことができました。参加者の皆さん、お疲れさまでした。

餅つき大会

1班 中国：支さん

12月10日、天保山での餅つき大会に参加しました。年末の時、よくスーパーでお餅を見ますが、すごく硬そうですので、どうやって食べるのか前から興味を持っていました。12時ぐらいに着いたら、もうみんな開始していました。初心者の私が、エプロンも何も持たず、普通の格好で行きました。先生からエプロンをもらって、髪の毛が食材に落ちないように、バンダナもかけてくれました。お餅は故郷でも旧正月の前に作ります。それと同じかなあと思って、実際にやってみると、やはりちょっと違います。故郷の米は「黄米」と呼ばれる小さなお米を使いますが、日本のはもち米が基本です。準備の過程は参加してなかったのですが、たぶん同じように、まずお米を水に浸してから蒸すのでしょうか。蒸しあがったお米をつくのをいつもテレビや観光地などで見ますが、実際自分でやったことがないので、ぜひやりたいと思いました。でもその前に、お米をこねるのが必要です。ほかの人がやるのを見ると、すごく簡単のようですが、自分で行ったら、けっこう力がいらいます。



何回も何回もやって、本当に腕が疲れます。「まだか、まだか」ところろの中で叫んでいました。やっと先生が「OK」と言ってくれました。だが、まだまだ難しいです。杵も重いし、リズムを把握するのも難しい。何回もほかの人の杵

を打って落ちました。でもだんだん順調になって、先生に姿勢がよいとほめられました。きな粉餅やぜんざいが甘くて、おいしかったです。海老入りのピンクのお餅、色もすごくかわいい、たくさん食べました。



初めてのお餅つき体験で、その次の日はアームが痛かつ

たですが、とても楽しかったです。機会があれば、故郷のお餅もみんなに紹介したいと思います。

日本での生活

1班 インド：サルダさん

私は4年前日本の徳島大学で無機化学(博士)の勉強をしながらインドから来ました。インド人によって日本はとても挑戦的な国です。食べ物や文化や言葉などがまったく違います。例えば、インド人はヒンズー教徒なので肉をあまり食べることが出来ません。ベジタリアンのほ



うが多いです。特に、牛は神様と同じなので牛肉は絶対にダメです。また、私は子供時から鳥や豚肉、魚を食べなかったので味はまったく知りませんでした。今までインドでは色々な種類の豆や野菜や果物などからたんぱく質を撮りました。私は日本に来た時25歳でした。言葉が分からない食べ物も合わない日本で生活出来たら将来世界のどこでも生活出来る自信を付けることができると、積極的に考えて留学の為日本を選びました。

日本に来て4年で日本語を話せるようになり、日本の食べ物で鳥や魚を食べるようになりました。特に食べ物で寿司、鳥の唐揚げ、みそ汁、うどん、そばが大好きです。ゼロから始まった生活自分で出来るようになりました。日本に来て良かった満足しました。

現在、今年の4月から会社員になり、徳島から大阪へ移動しました。今回大阪での新しい生活は奥さんと一緒に始めました。奥さんは日本に来るのは初めてでした。日本語をまったくできない妻とビジネスレベルの勉強したい私二人は大阪である日本語の教室を調べました。そこで、市岡教室について分かりました。クラスの先生たちはとても優しく親切です。



クラスのおかげで様々な国の友達もできました。クラスで色々なイベントに参加をし、日本語は以前よりも面白くなってきています。7月にお盆祭りに参加をし、日本の踊りにつ

いて理解しました。また、10月に行ったイベントで奥さんがインドの踊りの紹介をしました。本当に楽しかったです。そして、12月に“もちつき”の体験しました。もち作るのはけっこう大変でした。作ったもちを食べると今まで食べたもちより自分で作ったもちが一番美味しかった。

これからも市岡教室で行うイベントで参加をし、私たちの国インドについて紹介したいと思っています。楽しく勉強をしながら日本の文化を学びたい外国人に市岡教室はお

すすめです。ぜひ一度参加してみてください。

《お国自慢のイベント》

1班 高橋さん

2017年最後の市岡日本語教室はオープンクラスで学習者によるお国自慢の発表会でした。

各班からの代表者が出身国についてのスピーチをします。司会も学習者が務めました。

中国・台湾・パキスタン・インドネシアからの学習者の皆さんが写真や映像を交えながら日本語で出身国のことを一生懸命発表していました。日本人にとって馴染みのある国、ちょっと遠い感じがする国。それぞれの発表者の個性が出たとても楽しい内容でした。

テレビやインターネットがあるとはいえ、日本で生活しているだけでは絶対に知ることが出来ない、市岡日本語教室にいないとわからない各国の生きた情報を知ることが出来た貴重な機会となりました。日本ではマスコミ等を通して、どうしてもステレオタイプの知識しか知りえない状況のなか、日本で生活している学習者が紹介する自国は生活に根付いている情報が多く、聞いていてとても興味深いものばかりでした。



発表者はこの日のために写真や資料や映像を揃え、出身地を紹介する文章を考え、スピーチの練習をしてきたかと思いますが、その裏には大

変な努力があったかと思います。はっきりとしたわかりやすい口調で皆さん発表していました。たくさんの人の前で話すことだけでも気合いと根性が必要ですが、それに加えて外国語を使って発表するのですから。自分が逆の立場だったら途方に暮れてしまうところです。たくさんの努力を乗り越えてスピーチをした発表者とそれを支えた周りのボランティアの方々のご指導に大きな拍手を送ります。

学習者を募集中

寒い日が続きます。みなさん、風邪など引かないように体に気を付けてください。

学習者の皆さんも、お友達を誘ってご参加ください。

日本語教室は毎週金曜日のよる7時から8時30分に港区民センターの2階で行っています。

日程と場所はホームページで確認してください

この新聞の原稿は、投稿して頂いたままを記載しています。ほとんど手を加えていません。

